

---

## 図書館はなぜ利用者に好まれるのか

—中央図書館新ゾーニングの検討に向けた利用者アンケート調査報告—

稲 葉 直 也

---

### はじめに

本稿は、2015年度に利用者支援課が中央図書館で実施した利用者アンケート調査の結果を報告するものである。アンケート調査は、図書館がなぜ利用者に好まれているのかを明らかにし、中央図書館で検討されているラーニング・コモンズを見据えた新たなゾーニングの参考資料とするために実施した。アンケートの設計および結果の分析は筆者が主として行い、利用者支援課を代表して本稿にて報告を行う。

## I. 中央図書館における利用者調査実施の背景

### A. 中央図書館新ゾーニング案検討の必要性

2012年に策定された早稲田大学の長期計画 Waseda Vision 150において、「対話型、問題発見・解決型教育への移行」が掲げられた<sup>(1)</sup>。これを受けて、個人の学習スペースだけではなく、グループでディスカッションをしながらの学習など、学生の主体的なアクティブ・ラーニングを含めた多様な学習スタイルの実現を支えるため、ラーニング・コモンズの整備が全学を挙げて進められている<sup>(2)</sup>。もとより中央図書館においても、2009年度から館内に会話が可能なゾーンを設けるなど、ラーニング・コモンズと呼べるスペースを提供してきた<sup>(3)</sup>。しかし、当時は全学を挙げたラーニング・コモ

ンズ設置の気運が高まる前であり、かつ伝統的に大学図書館では想定されていない利用形態を前提としたゾーンの設定であったことから、利用者からのネガティブな反応を懸念しながらの、ごく小規模なスタートとなった。それから7年が経ち、活発に議論や会話がされているこれらのスペースは、既に中央図書館内の一般的な空間のひとつとして利用者に受け入れられるに至っている。

一方、その間に、2010年には文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会から『大学図書館の整備について（審議のまとめ）—変革する大学にあって求められる大学図書館像—』が出され<sup>(4)</sup>、大学図書館の機能としてラーニング・コモンズが挙げられ、大学図書館界でラーニング・コモンズ整備の気運が高まった。2012年には中央教育審議会より、アクティブ・ラーニングを主眼とした大学生の主体的な学修が促されるようになり、その方策の具体的な事例のひとつにラーニング・コモンズが挙げられた<sup>(5)</sup>。2015年に出された国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会の『ラーニング・コモンズの在り方に関する提言：実践事例普遍化小委員会報告』（以下、『提言』）でも、“ラーニング・コモンズが国の大学教育改革における目玉政策のひとつに数えられている”状況と紹介している<sup>(6)</sup>。こうした日本国内の大学教育を取り巻く状況の変化、そして早稲田大学における全学的なラーニング・コモンズ整備の流れを受け、現在の中央図書館のゾーニングを見直す必要が生じてきた。

## B. 大学図書館がラーニング・コモンズを設置する必要性

中央図書館における新たなゾーニングの検討にあたり、そもそも大学図書館がラーニング・コモンズを設置し、展開する必要性について確認しておく。

ラーニング・コモンズの在り方に関して、前述の『提言』は、“大学図書館が最適な LC（筆者注：Learning Commons）設置場所であることを前提”としながらも、“日本では特に私立大学を中心に、図書館以外（たとえば学

生部など)が設置する例が比較的多い”と指摘している<sup>(6)</sup>。現に早稲田大学においても、全学のラーニング・コモンズ設置を主体的に推進する役割を、図書館が担っているとは決して言えない。

大学図書館がラーニング・コモンズ設置の主体となるべき理由として、『提言』では、“LCは、施設(場所)、コンテンツ(情報)、サポートの3つから構成されるべきであり、その意味で、図書館のようにコンテンツがあることが必須”であり、“仮に図書館外に設置するにしても、コンテンツの提供という観点から、図書館が外にあるLCに密接に連携すべきである”としており<sup>(6)</sup>、筆者もこの考えに全面的に賛同する。現在の早稲田大学では図書館を含めた複数の主体がラーニング・コモンズの整備や運用を行っており、各キャンパスにラーニング・コモンズと呼ばれる数々の施設が整備され始めている<sup>(7)</sup>。このような状況において、図書館がラーニング・コモンズの整備に関して、大学の経営陣や既にラーニング・コモンズを運用している関連部署、関連教員との連携や協力や相互理解が得られるよう働きかけていくためには、なぜ図書館が主体となってラーニング・コモンズを運用するのか、改めて図書館としての考え方とその意義を明確にする必要がある。

### C. 中央図書館新ゾーニングの検討に向けた利用者調査の必要性

一方で、中央図書館の新ゾーニング案は、ラーニング・コモンズとしての機能を強化し、新たな利用者層を取り込むものであると同時に、既存の利用者を排するものとなってはならず、利用者ニーズを踏まえた提案であることが求められる。そのため利用者支援課では、まず中央図書館内の利用者の館内利用実態を把握し、利用者の動向や要望を踏まえたユーザー志向の検討を行うことにした。

先に挙げた『提言』では、“LCは固定したものではなく、教育と学習者のニーズに応じて、拡張と進化がありえるため、サービスや施設・設備の提供において十分にフレキシブルであるべきである”<sup>(6)</sup>とされている。

また、2016年に出された文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課整備計画室の『教育の質的転換を図る多様な学修スペースの整備に関する事例』でも、“学修スペースの計画・設計段階において、利用者や運営部門等を含めた検討体制の構築が重要である”とされているなど、ラーニング・コモンズ整備における利用者ニーズの把握の必要性について触れられている<sup>(8)</sup>。

施設の新設や見直しの際に、社会調査の手法である質問紙調査を行い、利用者の意見や要望を取り入れることは珍しいことではない。近年では、2012年に東京大学総合図書館が、“新図書館構想における総合図書館改修に向けて、利用実態を把握するとともに、新図書館ライブラリープラザ運用の検討資料とするため”に実施したアンケート調査がある<sup>(9)</sup>。これに限らず、図書館内の利用実態を把握するために、質問紙調査の手法はごく一般的に用いられている。

また、極めて多様な館内利用の実態をある程度量的な形で把握するためには、観察調査による手法が有効である。例えば、2009年に立石亜紀子が横浜国立大学附属図書館において実施した「場所としての図書館」調査があり、大学図書館内の利用実態が観察調査により詳細に分析できることが示された<sup>(10)</sup>。中央図書館においても、2015年に筆者らが観察調査によって館内利用量や活性度を測る調査を実施し、その結果の一部は既に『ふみくら：早稲田大学図書館報』No.89において報告している<sup>(11)</sup>。しかし、観察調査で得られるデータは、館内利用の客観的な評価や分析のためには有用であるが、利用者の主観的な意識までは探ることができないという限界がある。上記の報告でも、利用者の意向や意識まで含めた、より詳細な館内利用の実態を把握するためには、量的に測ることができるデータに加えて、アンケートやインタビューによる質的調査が必要であると指摘している<sup>(11)</sup>。

以上のことから、先に中央図書館で実施した前述の観察調査を補完し、さらに利用者志向の検討を行うために利用者アンケート調査を実施することにした。図書館の機能やゾーニングに対して利用者が抱く率直な意見を

集め、館内利用の実態をさらに詳細に把握することで、現状の問題点の整理を試みる。その上で、調査結果を元にして、他箇所が整備する学内ラーニング・コモンズとは異なる図書館ならではのラーニング・コモンズとは何か、望ましいゾーニングとともに検討し、差異化も試みる。

## Ⅱ. 中央図書館利用者アンケート調査

### A. 調査目的

第Ⅰ章にて述べた背景に基づき、次の2つを調査目的として、中央図書館利用者アンケート調査を実施することにした。まず1つ目に、アンケート調査によって利用者の主観的な図書館利用に対する意識を探り、2015年に行った観察調査によって明らかとなった客観的な評価や分析を補完するものとして、中央図書館の館内利用実態のより正確な把握と分析を試みることである。そして2つ目に、アンケート調査によって把握した利用者ニーズに基づいて、図書館であることの意義や強みを明確にした新たなゾーニングを考案し、他の施設にはない魅力を持ったラーニング・コモンズとしての中央図書館の再整備を行う手がかりを得ることである。

### B. 利用者アンケートの設計

利用者アンケートは、図書館はなぜ利用者に好まれるのか、他に様々な学習施設がある中であえて中央図書館を利用する決め手となる要素を明らかにすることに主眼を置いて設計した。アンケート設問は次の3点の調査項目に関して設定した。

問1. 中央図書館の施設や機能について

問2. 中央図書館の利用ゾーンについて

問3. 図書館・図書室以外の学習施設について

各調査項目の設問の詳細は、資料1の、実際に用いたアンケート用紙に示した。

ここでは、本調査で用いた、独特な設問の組み立て方について説明する。政治学や行政学における政策過程の分析において、ある政策が誰の影響によってもたらされたのか、その影響力構造を関係者に尋ねる形で問う「声価法」という手法がある<sup>(12)</sup>。今回はこの手法を図書館利用への影響力分析に応用し、図書館のどのような要素や、どのような環境の影響によって図書館が利用されたのかを特定して行くこととする<sup>(13)</sup>。

まず、回答者が他の施設ではなく図書館を選好する決め手となる図書館の要素や環境は何かを尋ねる設問を設けた。具体的には、設問1-1で、回答者が中央図書館を利用する際に欠かせないと思うもの、つまり影響力が大きいと考える図書館の要素や環境を3つ選択、順位付けをさせた。このデータを集計して影響力を数値化し、影響力の大きい主要な要素を分析するにあたっては、1位率と得票率という分析手法を用いる。1位率は、その要素や環境を1位、つまり最も図書館に欠かせないものとして選択した回答者数を有効回答数で割り、100を乗じて算出する。1位率からは、「利用者が図書館に対して強く求めている要素や環境、利用における影響力が最も大きいと認識されている機能」が読み取れる。一方、得票率は、その要素や環境を1位・2位・3位いずれかに選択した回答者数を有効回答数で割り、100を乗じて算出する。得票率からは、「順位に関わらず影響力がある要素」が特定でき、仮に1位率は低くても得票率が高い要素は、注目すべき図書館に求められる要素や環境とみなすことができる。

### C. 利用者アンケートの実施要領

アンケート調査は、中央図書館の平均的な利用者層と利用形態がみられる授業実施時期の平日、かつ晴天の日に実施することにし、条件の合った2016年5月18日（水）に行った。中央図書館は、私語厳禁かつ電子機器類の使用も禁止し静謐な学習環境を保ったブルーゾーン、静謐な環境を保ち

つつも電子機器類の使用は認めたグリーンゾーン、ラーニング・コモンズとして会話や議論が可能なオレンジゾーンの3つにゾーニングされており、ゾーンによって性質の異なる多様な利用形態がみられる。各ゾーンの利用者層により、図書館に対する意見や要望、図書館を選好する決め手は異なると考えられたため、回答者の利用ゾーン別に回答内容を分析できるようにした。

調査当日の開館時間中、10:00、13:00、16:00、19:00の4回、図書館職員が館内を巡回し、ブルーゾーン、グリーンゾーン、オレンジゾーンに滞在するすべての利用者に直接アンケートを配付した。アンケート用紙の表紙に記載してある調査趣旨を説明した上で回答を依頼し、当日の退館時に回収箱に提出してもらった。配付したアンケート数および回収の実績は第1表の通りである。全時間帯・全ゾーンを合計して791のアンケートを配付し、回収数は451、そのうち有効回答数は445であり、配付数に対する有効回答率は56.3%であった。また、第2表にアンケート回答者の属性を示した。

第1表 アンケート配付数および回収の実績

	配付数	回収数	有効回答数	有効回答率
ブルーゾーン	238	151	151	63.4%
グリーンゾーン	465	260	255	54.8%
オレンジゾーン	88	40	39	44.3%
合 計	791	451	445	56.3%

第2表 アンケート回答者の属性と人数 (n=445)

学部学生	大学院生	教職員・研究員	校友	その他	未回答
274	45	9	60	29	28

ここで、卒業生である校友はアンケート集計結果からは除くことにした。中央図書館の新ゾーニング案は、あくまで現役の学生および教職員が主に

利用する施設として検討するため、異なった要望や嗜好を持つと考えられる校友を含めることは不適当と考えられたためである。その結果、有効回答数445から校友60名を除いた385のアンケートを最終的な有効回答とし、集計と分析の対象とした。最終的な分析対象となった385名が利用していたゾーンの内訳は第3表の通りである。また、対象者の図書館の利用頻度は第4表の通りで、図書館を週に複数回利用する者が半数以上であった。

第3表 調査対象の利用ゾーン (n=385)

	人 数	割 合
ブルーゾーン	124	32.2%
グリーンゾーン	223	57.9%
オレンジゾーン	38	9.9%

第4表 図書館の利用頻度 (n=385)

ほぼ毎日	週に 4-5回	週に 2-3回	週に1回	月に 1-2回	年に数回	ほとんど 使わない	未回答
55	78	132	61	16	8	2	33

### Ⅲ. 利用者アンケート結果

各調査項目のアンケート結果の概要を以下の通りまとめる。

#### A. 中央図書館の施設や機能について

##### 1 中央図書館を利用する際に欠かせないと思う要素や環境

中央図書館を利用する際に欠かせないと思う要素や環境について、3つを順位付けして選択させた。まず、1位を3点、2位を2点、3位を1点と点数化し、その合計点を有効回答数で割ることで各要素・環境の平均点を算出し、その結果を第5表に示した。網掛けをして示した平均点0.5以上のものが、図書館を利用する際に欠かせないと捉えられている特に影響



力の高い要素・環境と言えよう<sup>(4)</sup>。さらに詳細な分析を加えるため1位率と得票率を算出し、平均点0.5以上の影響力の高い要素・環境に網掛けをした上で1位率の降順で並び替えたものが第6表であり、これが中央図書館が利用者に好まれる要因を示した順位と言える。

第5表 各要素・環境の影響力の平均点

	全ゾーン	ブルーゾーン	グリーンゾーン	オレンジゾーン
1 必要な資料がある	1.45	1.51	1.44	1.29
2 静かである	1.66	1.77	1.66	1.32
3 一人で作業ができる	0.94	1.15	0.85	0.79
4 備付インターネット PC が利用できる	0.11	0.06	0.06	0.55
5 無線 LAN で PC 等が利用できる	0.71	0.30	0.96	0.63
6 グループで利用できる	0.11	0.02	0.08	0.55
7 図書館員に質問・相談ができる	0.04	0.04	0.03	0.11
8 利用したい時に開館している	0.83	1.04	0.73	0.74
9 その他	0.02	0.01	0.03	0.03

第6表 中央図書館を利用する際に欠かせないと思う要素や環境  
(全ゾーン合計) (n=385)

	平均点	1位率	得票率
1 必要な資料がある	1.45	34.8%	60.5%
2 静かである	1.66	30.4%	75.8%
3 一人で作業ができる	0.94	11.7%	50.9%
8 利用したい時に開館している	0.83	11.4%	46.8%
5 無線 LAN で PC 等が利用できる	0.71	9.1%	38.2%
6 グループで利用できる	0.11	0.8%	6.5%
4 備付インターネット PC が利用できる	0.11	0.5%	7.3%
7 図書館員に質問・相談ができる	0.04	0.0%	3.4%
9 その他	0.02	0.0%	1.8%

1位率が最も高い要素は「必要な資料がある」ことで、図書館資料とい

う要素があるからこそ図書館を利用しているという層が一定数いることが示される結果となった。加えて興味深いのは、1位率としては2位の「静かである」という環境が得票率では1位であること、また1位率としては11.7%程度である「一人で作業ができる」という要素が、得票率では50%を超えていることである。伝統的な図書館利用形態といえる「静かに一人で作業ができる」ことを、いまだ半数以上の利用者が重要な要素として求めている。図書館は個人学習をするための場所という捉えられ方がなお大半であり、グループ学習や活発なディスカッションを前提とするラーニング・コモンズを展開する上で、こういった既存の利用者の利用傾向とのバランスを保つことが重要となろう。また、1位率としては9.1%である無線LANについても得票率では40%近い支持を獲得するなど、学習施設として最低限備えるべきインフラとして、インターネット利用環境への要望の高さが読み取れる。

また、第7表から第9表では、各ゾーンの利用者ごとに、図書館に求める要素や環境の平均点、1位率と得票率を表した。細かな点で差異はみられるが、各ゾーンの利用者が重要視する要素や環境はまず「必要な資料がある」とことと「静かである」とことであり、ほぼ似たような嗜好を持っている。

一方で、平均点0.5以上の影響力の高い要素について、ゾーンごとの差異に着目すると以下のことが分かる。まず、ブルーゾーンでは資料の利用よりも静かさが1位率で最も高く、かつ一人で作業ができることの1位率・得票率が他と比べて高い。ブルーゾーンでは、特に静かに一人で集中して作業をしたい利用者が多いと読み取れる。次にグリーンゾーンでは、ブルーゾーンと同様に静かであることを強く求めながらも、50%を超える得票率で無線LANへの要望が加わってくるなど、図書館を活用しながらPCを用いた作業に重きを置く利用者が多い傾向にある。最後にオレンジゾーンでは、グループでの利用と備付PCの利用が影響力の高い要素として挙がってくる。これは他のゾーンにはない特徴であるが、しかし、オレ

ンジゾーンでも、大半の利用者が「必要な資料がある」ことを1位に挙げており、他にも「静かである」ことや一人での作業を志向する利用者が多いことは特筆すべき点である。2015年度に行ったオレンジゾーンに対する活性度調査では、オレンジゾーンは他の閲覧スペースと比べ図書館資料の利用率はそれほど高くなく、場所として利用される傾向が強いことが報告

第7表 中央図書館を利用する際に欠かせないと思う要素や環境  
(ブルーゾーン) (n=124)

	平均点	1位率	得票率
2 静かである	1.77	33.1%	79.0%
1 必要な資料がある	1.51	31.5%	68.5%
3 一人で作業ができる	1.15	17.7%	58.9%
8 利用したい時に開館している	1.04	13.7%	56.5%
5 無線LANでPC等が利用できる	0.30	3.2%	17.7%
4 備付インターネットPCが利用できる	0.06	0.0%	5.6%
7 図書館員に質問・相談ができる	0.04	0.0%	4.0%
6 グループで利用できる	0.02	0.0%	1.6%
9 その他	0.01	0.0%	0.8%

第8表 中央図書館を利用する際に欠かせないと思う要素や環境  
(グリーンゾーン) (n=223)

	平均点	1位率	得票率
1 必要な資料がある	1.44	36.3%	57.4%
2 静かである	1.66	30.9%	76.7%
5 無線LANでPC等が利用できる	0.96	11.7%	50.7%
8 利用したい時に開館している	0.73	9.9%	42.2%
3 一人で作業ができる	0.85	9.0%	47.1%
4 備付インターネットPCが利用できる	0.06	0.4%	4.5%
6 グループで利用できる	0.08	0.0%	5.8%
9 その他	0.03	0.0%	2.7%
7 図書館員に質問・相談ができる	0.03	0.0%	2.2%

第9表 中央図書館を利用する際に欠かせないと思う要素や環境  
(オレンジゾーン) (n=38)

	平均点	1位率	得票率
1 必要な資料がある	1.29	36.8%	52.6%
2 静かである	1.32	18.4%	60.5%
5 無線 LAN で PC 等が利用できる	0.63	13.2%	31.6%
8 利用したい時に開館している	0.74	13.2%	42.1%
3 一人で作業ができる	0.79	7.9%	47.4%
6 グループで利用できる	0.55	7.9%	26.3%
4 備付インターネット PC が利用できる	0.55	2.6%	28.9%
7 図書館員に質問・相談ができる	0.11	0.0%	7.9%
9 その他	0.03	0.0%	2.6%

されていた<sup>(11)</sup>。しかし、今回の調査結果から、図書館をラーニング・コモンズとして利用している層が最も多いと推測できるオレンジゾーンの利用者でも、資料の利用をまず重要な要素と捉えていることが明らかとなった。ラーニング・コモンズのあるべき姿からすると、静かに一人で作業することが選好されることは本来の趣旨からは外れた利用傾向とも考えられるが、図書館ならではの特徴や差異を考えたラーニング・コモンズを検討する上で外せない要素と言える。

## 2 普段、中央図書館をどのような用途で利用しているのか

続いて、中央図書館を普段どのような用途で利用しているのかを複数回答を認めて尋ねた。それぞれの用途への回答数を有効回答数で割り、100を乗じた値を降順にまとめたものが第10表である。

この結果から、「授業の予習・復習」、「レポート、論文作成」や「期末試験等の勉強」などの用途が多くを占め、場所としての図書館の利用が大半であることが分かる。その一方で、50%を超える利用者が「資料を利用すること」や「資料を借りる」ことを利用用途として挙げている。単なる勉強場所として図書館が利用されているわけではなく、図書館資料が利用できることも図書館が選好される重要な要素であることがうかがえ、これ

は他の施設には替えられない大きな特徴であろう。前節でも触れた通り、オレンジゾーン利用者も資料の利用を図書館利用に欠かせない要素として重要視しており、図書館資料の活用という視座なくして、図書館におけるラーニング・コモンズの検討はできない。また40%近い利用者が単に「空き時間を過ごす」場所として図書館を利用している点も見逃せず、図書館が学内の中でも居心地のよい場所と認識されていることもうかがえた。一方、現状では、人的サービスよりは、施設の活用が主たる利用目的であることも明確になった。

第10表 普段、中央図書館をどのような用途で利用しているのか  
(複数回答可) (n=385)

4	授業の予習・復習	62.6%
1	資料の利用	61.3%
5	レポート、論文作成	55.6%
2	資料を借りる	51.4%
6	期末試験等の勉強	47.8%
7	資格試験等の受験勉強	38.7%
12	空き時間を過ごす	37.4%
8	その他の調査や研究	18.2%
10	グループ学習・ディスカッション	10.9%
3	電子ジャーナルやデータベースの利用	10.1%
9	備付インターネット PC の利用	8.6%
13	その他	2.6%
11	図書館員に質問・相談する	1.6%

### 3 普段よく中央図書館で利用する場所はどこか

次に、普段よく利用する中央図書館内の場所について複数回答を認めて尋ね、それぞれを選んだ回答数を有効回答数で割り、100を乗じた値を示したものが第11表である。今回の調査では直接アンケート配付を行わなかった場所についても、ほぼ万遍なくよく利用する場所として挙げられており、幅広く館内が利用されていることが明らかとなった。その中でも、

特によく利用されているのは各ブルーゾーンとグリーンゾーンの閲覧席であり、いずれも有効回答数の20%を超える支持を受けている。特に利用が集中しているのは、30%を超えた「③ 2階閲覧席（グリーン）」と「① 2階閲覧席（ブルー）」であり、この結果は、2015年度に行った館内利用調査で最も多くの利用者が観察できた場所と一致しており、観察調査とアンケート調査の結果、双方の確かさを示していると言えよう。「④ 学習コーナー」をはじめとした各オレンジゾーン（④、⑤、⑥、⑦、⑯）にも一定数のよく利用する者がいることが分かり、2009年より設けられたオレンジゾーンが、既に利用者に根付いていることも改めて確認できた。

第11表 普段よく中央図書館で利用する場所（複数回答可）（n=385）

① 2階閲覧席（ブルー）	31.7%
② 2階閲覧席（ブルー）	21.3%
③ 2階閲覧席（グリーン）	39.0%
④ 学習コーナー	13.0%
⑤ 2階グループ学習室 A	6.8%
⑥ 2階グループ学習室 B	2.3%
⑦ 3階グループ学習室 C	2.6%
⑧ 3階閲覧席（ブルー）	23.9%
⑨ 3階閲覧席（グリーン）	24.4%
⑩ 3階閲覧席（グリーン）	20.3%
⑪ 新聞・雑誌コーナー	12.7%
⑫ バックナンバー書庫	7.3%
⑬ 特別資料室	0.5%
⑭ AV ルーム	6.5%
⑮ 複写・マイクロ資料室	1.3%
⑯ 4階図書館ラウンジ	2.9%
⑰ 1階研究書庫 閲覧室	7.3%
⑱ 地下1・2階 閲覧個室	5.5%
⑲ 地下1・2階研究書庫 閲覧席	12.2%

#### 4 中央図書館の施設や機能について要望や改善してほしい点

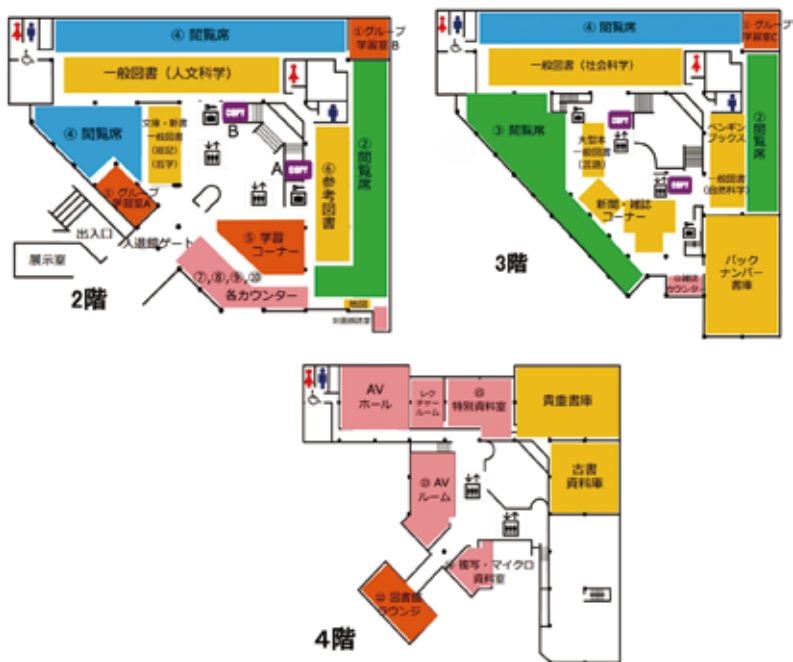
最後に、自由記述で図書館の施設や機能についての要望や改善点を3点記入してもらい、資料2に1位に挙げられた要素のみを抜粋してまとめた。最も多い要望は開館時間に対するもので、特に土日の開館時間が平日と比べて短いことについての言及が多い。中央図書館を利用する際に欠かせない要素として「利用したい時に開館している」ことがいずれのゾーンの利用者からも高く支持されており、開館時間への関心は高い。次に多いのは無線LANに関する要望で、頻繁に接続し難くなること、速度が遅くなること、そもそも繋がらない場所があることに改善の要望が多く寄せられた。その他にも、閲覧席の設備、館内環境や施設に関する意見が寄せられ、検討に値する要望もみられた。飲食については、建物内または近くで飲食が認められたスペースの要望があった。

#### B. 中央図書館の利用ゾーンについて

この調査項目は、第1図に示した現状の中央図書館のゾーニングの問題点を洗い出し、その広さや配分等について利用者から率直な意見を聞くことを意図して設定した。

##### 1 今のゾーンを利用していた理由

まず、回答者が利用していたゾーンについて、なぜそのゾーンを利用していたのか、自由記述で理由を尋ねた。結果を資料3にまとめているが、概ね、回答者は明確な意図を持ってそのゾーンを利用していることが分かった。ブルーゾーンとグリーンゾーンについては、共通して「静かである・集中できるため」、「必要な資料の利用のため」が理由に多く挙げられていた。ブルーゾーン利用者のうち、静かであることを理由に挙げているものを細かくみると、特にPCが禁止されていることを選好する回答が多く見受けられた。一方、グリーンゾーンでは、PC等の機器が利用できることを理由に挙げるものが極めて多い。また、オレンジゾーンは発話やグループ利用ができることが理由に多く挙げられるなど、想定通りに館内が



第1図 現状の中央図書館のゾーニング

使い分けられており、ゾーニングが機能していることが確認ができた。

## 2 各ゾーンの広さについて、および中央図書館のゾーニングについての意見や要望

次に、各ゾーンの広さについて、それぞれ「減らすべき」「適当である」「増やすべき」かを尋ね、それぞれが選択された割合を示した結果が第12表である。

第12表 各ゾーンの広さについて (n=385)

	減らすべき	適当である	増やすべき
ブルーゾーン	17.2%	77.6%	5.1%
グリーンゾーン	1.2%	66.3%	32.5%
オレンジゾーン	7.0%	79.1%	13.9%



この結果から、大半の利用者は現状のゾーニングで広さや席の数としては適当と考えていることが分かったが、ブルーゾーンは現状より減らすべきという意見、グリーンゾーンは現状より増やすべきという意見が目立つ。ここまでの調査結果の傾向から、現状ではPCなどの機器を活用しつつも静かに作業を行うことが最も好まれる図書館利用の形態であり、そのような利用が可能なグリーンゾーンを求める声が多いことがうかがえる。オレンジゾーンについては、図書館にはふさわしくなく不要という強い意見を述べる回答者が後述する自由記述で一部みられたが、増やすべきという意見もそれ以上にみられた。

最後に、現在のゾーニングについて意見や要望を自由記述形式で尋ね、回答を資料4にまとめた。紙幅の都合で詳細は省くが、多数みられた意見の傾向を述べる。ゾーニングについては、その区分の不明瞭さ、問題を抱えたゾーン設定となっているエリアがあることが浮き彫りとなった。具体的には、遮音壁で隔ててはいるもののオレンジゾーンとブルーゾーンが接触している2階グループ学習室Aと周辺のブルーゾーン、飛び地のような形でブルーゾーンの中にオレンジゾーンが存在する格好となっているグループ学習室B・Cである。オレンジゾーンのほか、一部グリーンゾーンが、ブルーゾーンとの遮音が十分でなく、それぞれのゾーンの利用者が求める環境の差から、双方の利用者同士で悪影響を与え合っている状態も明らかとなった。また、ゾーニングが明瞭でないために不適当な利用が発生することによるトラブルも頻発している。例えば、ゾーニング設定を正しく認識していない利用者がブルーゾーン内でPCや電卓等を利用した際の音に対して、不満が多く寄せられている。これは、ゾーニングを明確に示す館内サインや掲示が不十分であり、利用者への認知がうまく成されていないことも一因であることが結果から推測される。

2015年度に実施した、オレンジゾーンの活性度調査からは、意図に反して一部のオレンジゾーンで議論や対話が行われておらず、活性化していない状況が明らかとなっている<sup>(1)</sup>。具体的には、学習コーナーが静かに一人

で勉強する閲覧席のように利用されていて、活発な議論やグループ学習がなされるエリアにはなっていない。一方、オレンジゾーンの中でもグループ学習室 A は特に活性度が高いが、これは学習コーナーと異なり、壁が設けられて物理的に周囲から遮断された学習室となっていることが要因と推測される。また、グループ学習室 B および C、図書館ラウンジは利用者数自体が比較的少ないことから、飛び地化しているゾーンの利用率が概して低くなる傾向があり、今回のゾーニングに対する意見にも見られたように、同じ機能のゾーンはそれぞれできる限り集約し、オレンジゾーンはなるべく物理的にも他のゾーンとは区切ることが、オレンジゾーンの活性化のために必要な対策と考えられる。

ゾーンごとの区分は明瞭なものとすること、極力ゾーンは物理的に交わらないように遮蔽すること、ゾーニングは分かりやすく認識できるようにすること、この三点が現状のゾーニングを見直すうえで重要な視点と言えよう。

## C. 図書館・図書室以外の学習施設について

三つ目の調査項目として、他の学習施設と比べた時の図書館の特徴や、好まれている点をより明確にし、図書館として外してはならない要素を見極めるため、よく利用する学内施設に関する設問を設けた。

### 1 図書館・図書室以外によく利用する学内の学習施設、自習場所、時間を過ごす場所

「中央図書館を利用する際に欠かせないと思う要素や環境」の設問と同様に、図書館・図書室以外によく利用する学内施設3つを順位付けして選択させ、平均点、1位率と得票率を算出した。この設問の集計結果を1位率の順に降順で並び替えたものが第13表である。

コンピュータールームや学生ラウンジが主に利用されていることが分かったが、平均点は全体的に低く圧倒的に支持を集める施設はなかった。また、1位率でもっとも高いのは「図書館の他に特によく利用する学習施

第13表 図書館・図書室以外によく利用する学内の学習施設、  
自習場所等 (n=385)

	平均点	1 位率	得票率
8 特になし	0.71	18.2%	29.1%
2 コンピュータールーム	0.79	17.4%	32.7%
5 各学部・研究科の学生ラウンジ	0.58	10.6%	27.0%
7 学内の飲食施設	0.47	8.6%	22.9%
1 W Space (3号館2階・7号館1階)	0.35	8.3%	14.3%
9 その他	0.24	6.2%	9.4%
3 サークルの部室・たまり場	0.29	5.7%	13.5%
6 空き教室	0.37	5.5%	19.0%
4 研究室	0.14	3.9%	5.5%

設はない」という答えであることも、驚きを感じる結果である。2014年度より整備され、まだそれほど時間の経っていない W Space<sup>(15)</sup>についても、既に1位率・得票率ともに10%前後を得て利用されている点、飲食施設など、本来自習を行うような場所でないところもそれなりの得票率を得ている点から、早稲田キャンパス内において自習可能な学習施設が不足していることが読み取れる。

## 2 上述の施設が中央図書館と比べて良いと思う点、悪いと思う点

中央図書館と比べて、図書館外の施設が良いと思う点と悪いと思う点を尋ね、資料5にまとめた。良いと思う点で特に多い意見は、飲食ができること、立地が良いこと、発話やグループ利用がしやすいこと、PC 利用環境が優れていることであった。一方で悪いと思う点は、騒がしい、混雑している、落ち着けないなどの、静かに集中することができないという内容が圧倒的に多く、また必要な資料が利用できないという意見もみられた。

このような回答がされながらも、図書館とこれらの他の施設は役割が違うので比べられないという指摘が見られたことには注目したい。飲食も会話なども可能な気軽に利用ができる施設も望ましい一方で、図書館にまで同じような機能を求めるわけではなく、異なった位置付けにあると捉えら

れていた。図書館は、気持ちを切り替え静かに集中して学習する場所として、他の学習施設とは使い分けられていることが強くうかがえた。

### 3 本日、上述の施設ではなく、中央図書館を利用していたのはなぜか

中央図書館が好まれる要因を掴むため、他の学内施設ではなく、あえて中央図書館を利用していた理由を自由記述で尋ねた。その結果をまとめたものが資料6である。これには様々な要因があるが、上の設問で尋ねた図書館の他に利用される学習施設の結果からも分かる通り、静かに一人で集中ができる学習施設が学内に少ないという状況が強く影響していると考えられる。勉強ができる環境を求めて図書館が利用されているほか、必要な資料などの図書館が提供する情報やサービスが求められていた。また、図書館は落ち着く、雰囲気が良いという声からは、図書館は居心地の良い場所として好まれていることもうかがえた。これは、先の設問で中央図書館の利用用途として「空き時間を過ごす」ことに40%近い支持があったことや、2015年度内に行った館内利用調査でも、利用者の館内の平均滞在時間は通常期で約90分、閑散期で約120分と判明していることから示唆されている<sup>(11)</sup>。

これらの結果から、図書館が他の学習施設では代替の効かない役割を果たしており、唯一の「静かに集中して学習ができる」場所として認識され、そのために好んで利用する層が多数いることが明らかとなった。

## IV. 中央図書館新ゾーニングの検討

### A. 新ゾーニングの方向性

以上の利用者アンケート結果から見出された利用者ニーズを踏まえ、新ゾーニングの方向性、考慮すべき視座や機能について以下の通りまとめた。

- ・図書館が「対話型、問題発見・解決型教育への移行」を支える学習施設として、学生が生き生きと相互に教え学び合う場になるようラーニン

グ・コモンズとしての機能を拡充するため、オレンジゾーンの整備と活性化を行うべきである。

- ・一方で、本アンケート調査の対象がヘビーユーザー中心となったことを差し引いても、現状の利用者が図書館に対して求める機能の多くは、静かに、個人で、図書館資料を利用し、勉強をする、というものであり、その要望の大きさが改めて明確となった。
- ・図書館の「図書館資料が利用できる」という機能はもとより、「静かに集中して学習ができる」という機能は、現状では他の学内施設では替え難いことも明らかとなった。新たなゾーニングでも、他では代替できない機能と、これらの機能を選好する利用者層の期待に応える必要がある。
- ・オレンジゾーンは、その性質上、伝統的な静かな図書館のイメージに反するもので、図書館にはふさわしくなく不要または減らすべきという意見を述べる回答者も一部みられたが、それ以上に増やすべきという意見もみられ、多様な利用形態やゾーニングを認める素地は固まりつつあるものと思われた。
- ・先の館内利用調査から、オレンジゾーンの利用者用座席占有率は、通常期、繁忙期、閑散期いずれの時期も、最も利用者の多い16:00の時間帯でも2割から4割程度であり、その活性度が不十分という結果が報告されている<sup>(11)</sup>。
- ・このような状況に鑑み、新ゾーニングの方針は、ラーニング・コモンズとしての機能は拡充しつつも、静謐なゾーンや旧来の伝統的な図書館の要素や環境は維持して従来からの利用者の期待にも応え、双方の機能を共存させる方向性が望ましい。具体的には、オレンジゾーンは集約することで他のゾーンとの棲み分けを明確なものとし、その活性度を上げることを主眼に置いた整備を行う。また、無線LANや電源などの必要な設備を補強することなどを通じて、機能が最大限に発揮されるような施設やインフラを充実させる。
- ・学内で整備が進む他のラーニング・コモンズとの差異化を図るためには、

身近に図書館資料があり利用できることと、静かに集中して学習ができる環境がすぐそばに備えられていることを生かして、よりリサーチ・コモンズとして活用されることを意図した設計にすることが考えられる。

## B. 新ゾーニングに向けた提案

上述した方向性をもとに、図書館ならではのラーニング・コモンズとして機能するような中央図書館の新ゾーニングについて、館内設備、館内環境やサービスなどのあらゆる面で求められる条件や配慮を以下の通り提案する。

- 1 オレンジゾーンの集約による広範なラーニング・コモンズエリアの新設・入館してすぐの2階エリアにオレンジゾーンを集約し、かつ新たにグループ学習室を整備する。具体的には、2階グループ学習室A付近のブルーゾーンをオレンジゾーンに変更し、対話や議論の活性化を促すために什器やホワイトボード、グループ利用のためのパーティション、PCを用いた作業を行うためのプロジェクターやモニターなど、設備を充実させる。
  - ・2階は、入退館ゲートから一般図書および参考図書の書架より手前側の全体がオレンジゾーンとなり、この広範囲をラーニング・コモンズエリアという位置付けとする。
  - ・ラーニング・コモンズとして活用できるスペースについては、さらに1階や4階も活用し、用途に応じた拡張を行うことが出来る余地を残す。
- 2 オレンジゾーンとその他のゾーンの利用者同士が悪影響を与え合わないような配慮

- ・オレンジゾーン以外の閲覧席についても、なるべく同じ利用ゾーンが集約されるよう調整を行う。ブルーゾーンおよびグリーンゾーンは、オレンジゾーンからは遮音壁等で物理的に区切られるようにすることで、性質の異なるエリアの騒音等に関して双方の利用者間で苦情が発生することを抑える。

- ・オレンジゾーンである現在の3階グループ学習室Cは、周辺のゾーンとの整合性に鑑みてブルーゾーンへ変更する。既に学習室となっていることを生かし、他のブルーゾーンよりも静かに集中して学習するための、さらに静謐なゾーンとして新たに設定する。ブルーゾーン内であっても、電卓の利用など、周囲の物音を気にする利用者の声が散見されたため、そういった要望に応えられると期待できる。

### 3 静かに集中して学習ができる環境の維持

- ・グリーンゾーンとブルーゾーンは、多少のゾーンの整理は行うものの、大幅な席の増減は発生させずに維持し、オレンジゾーンとの区分を明確なものとした上で、従来の静かな環境を好む利用者とラーニング・コモンの利用者が併存できるよう配慮する。
- ・2015年に行った館内利用調査では、繁忙期のもっとも利用者が多い時間帯の2階および3階のグリーンゾーンの利用量は、他の時期の全館の合計量を遥かに凌駕するほど突出していることが明らかとなった。一方で、グリーンゾーンのテーブル席では、利用者は自身が座る席の他に荷物を置く席も確保し、一人で実質二席を専有するケースが大半であるため、現状の閲覧席数を維持しつつ、満席に近い状態の時は利用者間で席を融通するよう呼び掛けを行うことで、当面の対応は可能と思われる。
- ・グリーンゾーンは利用が集中するため、同ゾーンの閲覧席すべてに電源を設置する、無線LAN環境をより強化させる、椅子をできれば良いものとするなど、閲覧席の環境を整えることで利用の快適さを向上させる。
- ・ブルーゾーンについても、席数についてはほぼ現状維持とするが、ゾーンの整理やさらに静かなゾーンの設定により、ブルーゾーンの静かな環境を好んで利用している層にとってはより要望に合った環境になるものと期待できる。

### 4 新たなサポートデスク、サポートスタッフの設置

- ・ラーニング・コモنزとしての図書館には、図書館が備える学術情報をこれまで以上に効果的に提供するサポートの充実が求められる。図書館

職員に蓄積されているレファレンスや図書館情報リテラシーに関する授業などのノウハウを結集し、対面サービスをさらに充実させることで、図書館資料が身近にあることの意義を一層高めるべきである。

- ・また、Waseda Vision 150に掲げられるステューデント・ジョブの方針にも則り、学内で整備の進むラーニング・アシスタント制度を用いて、学生スタッフによるピアサポート体制を整備し、そのサポートデスクを新たにラーニング・コモンズエリアに設ける。2階には従来のサービスデスクに加え、新たなサポートデスク、また館外他箇所のサービスデスクの出張所を設けることができる余地を残す。
- ・逆に言えば、図書館外のラーニング・コモンズにおいても、学術情報への効果的なアクセスを促すサービスが提供されるようにすべきである。図書館が主体的にラーニング・コモンズ整備に携わることで、各所に配置されるラーニング・アシスタントへの人的支援を通じて、他のラーニング・コモンズにも学術情報提供のサービスを行き渡らせ、いわば図書館サービスの出張所が各地に設けられているような体制を目指す。

## 5 図書館における飲食についての方針

- ・今回のアンケート結果でも、中央図書館での飲食に対する要望が多く寄せられた。図書館資料保存の観点からは、開架資料が近くにあるエリアで飲食を認めることは好ましくなく、一部分であっても入退館ゲート内の利用スペースで飲食を解禁してしまうことにより、全館での菌止めが利かなくなることが懸念される。
- ・そのため、中央図書館内の入退館ゲート外に飲食が可能なスペースを設け、一定の要望に応えることを検討したい。例えば、現在の学術情報センター喫茶前のスペースを飲食可能な休憩スペースとして整備することや、現状でもテラスのベンチで食事をとっている利用者が多く見受けられることに鑑み、これらの場所をより環境が良くなるよう整備する。
- ・アンケート結果の飲食に対する要望をみても、入退館ゲート外も含めてどこかで食べることができれば望ましいという声が主であり、中央図書



館の利用者層の多くは、それほど強く利用スペースでの飲食を求めているわけではないことがうかがえた。

## 6 開館時間についての方針

- ・自由記述で開館時間についての意見は数多くみられた。24時間開館に関する要望もみられたが、土日の開館時間が平日に比べ短いことに対し、開館時間を平日並みにしてほしいという要望が特に多い。
- ・図書館の利用は、コンテンツである図書館資料の利用と不可分であることが今回の調査結果から明らかとなった。図書館として、あえて場所としてのみ24時間利用できるエリアを設ける意義はさほど大きくはないのではないかと。
- ・24時間利用できるエリアを限定的に設けることは可能性としてはあり得る。その場合、1階研究書庫閲覧室やゾーン変更後の2階ラーニング・コモンズエリアが候補となる。

## V. 調査のまとめ

以上で述べたアンケート調査結果と分析、またそれを基に提案した新ゾーニングの方針を踏まえ、2つの調査目的について振り返りたい。

### A. 中央図書館の館内利用実態をより正確に把握し分析すること

本アンケート調査によって、先の館内利用調査では測れなかった利用者の主観的な館内利用に関する意識や選好を把握し、新ゾーニングの検討に向けた手掛かりを得ることができた。特に、中央図書館を利用する際に欠かせないと思う要素や環境を問うために用いた声価法による手法に、1位率と得票率という視点を加えることで、単純な複数回答式で選択させる形では見出だせない多様な分析が可能となり、有効性が確認できた。多くのゾーンの利用者に共通して1位率がトップとなる「必要な資料がある」という要素の重要性もさることながら、1位率ではトップに挙がらなくても

極めて高い得票率を得る「静かである」という要素、すべての利用者にとって共通して薄く広く重要と捉えられているや「無線 LAN」の存在が明らかになったことは、本調査手法の特徴的な成果である。一方、こうしたアンケート調査だけではあまりに主観的に過ぎ、客観的な分析とはいえないという面もあるが、先に実施した量的に館内利用を測る調査手法の結果と組み合わせることで、より館内利用の実態を正確に把握し、多面的な分析ができる見通しが得られた。本調査でも、先の館内利用調査で得られていた客観的な各フロア・エリアの館内利用量のデータ、館内利用傾向のデータ、オレンジゾーンの活性度のデータ、館内滞在時間のデータがあったからこそ、アンケート調査による回答からみられた傾向の正確性が担保され、より複合的な分析ができた。館内利用の実態を把握する試みにおいては、量的に測る手法とともに、アンケート等による質的な調査も加えた、両者の並行実施が望ましい。今後の展望としては、より多様な利用者の意見を集め内容分析を行う半構造化インタビューなど、さらなる質的調査の手法を用いて利用者の声を分析することも検討したい。今回の調査では、図書館利用に影響力を持つ主要な要素を特定できたものの、要素間の関係性や影響力構造までは踏み込めていないが、インタビュー調査を通じて詳細を明らかにできると見込まれる。

## B. ラーニング・コモンズとしての中央図書館の再整備を行う手がかりを得ること

本調査結果により明らかとなった利用者ニーズに基づいて、前章で述べたように新たなゾーニングの方向性を検討することができた。図書館ならではのラーニング・コモンズとは、身近に図書館資料があって、それを活用しながら、アクティブ・ラーニングと静かに集中した個人の学習という一見対立する多様な学習スタイルを共存させたものとなろう。いわばリサーチ・コモンズに近い利活用を想定することで、学内の他のラーニング・コモンズとの差異化を図ることもできる。ゾーニングとしては、活発

に議論ができるオレンジゾーンのようなスペースの拡充を図るとともに、静かで一人で集中して作業ができるという他の学内施設には替え難い図書館の機能を果たすゾーンも十分に残し、活発な議論や対話を行う利用者と伝統的な図書館利用者とが共存できるようにしなければならないことが見出せた。こういった環境を整えるためには、性質の異なるゾーンが物理的に干渉し、双方の利用者に悪影響を及ぼし合わないようゾーンを集約・区分することが求められる。

既に触れたように、ラーニング・コモンズに必要な構成要素は、施設（場所）、コンテンツ（情報）、サポートの3つであり<sup>(6)</sup>、利用者アンケートからは図書館という施設のもつ性質と、図書館資料というコンテンツへの強い選好や支持を確認でき、図書館利用の決め手となっていることが明らかとなった。しかし、サポートに関しては図書館の利用を決定づけるような影響力を持った要素とはなっておらず、改善の余地がある。サポート面の充実、今後の大きな課題と言えよう。

図書館は紙媒体の資料をはじめ、今では数多くの電子媒体の学術情報を提供しており、学習に欠かせない学術情報というコンテンツを豊富に取り揃えて提供しているほか、レファレンスサービスや図書館情報リテラシー教育を提供する人的支援の体制が整っている。図書館内のみならず、図書館外のラーニング・コモンズにおいても、学術情報提供や情報リテラシー支援等のサポートを主体的に担いうる機関である。図書館がラーニング・コモンズの整備に主体的に関わるべき意義は、学術情報というコンテンツとその提供というサポートの面において、ラーニング・コモンズを図書館サービス出張所のように位置付けて、情報リテラシー支援・学術情報検索支援を学内に広く行き渡らせることが可能な点にあるのではないだろうか。

一方で、本調査を通じて新たなゾーニングと図書館におけるラーニング・コモンズ方向性は見出せたものの、具体的な空間や什器などの整備に関する提案には至っていない。また、研究図書館としての中央図書館の側面も踏まえた、リサーチ・コモンズも意識した設計とするために必要な

要素についても見出せていない。これらの課題については、今後実施する予定の図書館利用者に対する半構造化インタビューなどを通じて要望を明らかにし、検討を進めていきたい。

本稿の冒頭で、現状の早稲田大学では、図書館がラーニング・コモンズの整備や運用の主体であるべきとは捉えられていないと述べた。上述してきた観点から、なぜ図書館がラーニング・コモンズの運用に主体的な役割を果たすべきなのか、図書館として今後も提言し続けなければならない。図書館が備えることのできる学習支援環境だけでは、十分なラーニング・コモンズを運用することは不可能である。施設の整備や提供するサービス、人的資源等の面で学内複数部署と横断的な連携を行い、また新たな教育や授業の手法とも密接に関係するため、関連教員や関連部署との相互理解と連携も図れるようにしていきたい。

## 結びにかえて

本稿で示した中央図書館の新ゾーニングに向けた方針は、利用者支援課が現段階での利用者の要望を可能な限り取り入れた案として提唱するものである。そのため、早稲田大学図書館全体の総意によるものではなく、実際の改修に当たっての実現可能性は考慮していない。新たなゾーニングや中央図書館の改修がこの通りに進むものではないことは、ここに申し添えたい。中央図書館の再整備に際しては、物理的な制約のほか様々な面から改めてゾーニングについて再考が加えられることになるであろう。

最後に、本調査の趣旨に賛同いただき、アンケート調査にご協力いただいた中央図書館利用者の皆様方に、この場を借りて御礼申し上げる。

## 注・参考文献

- (1) 早稲田大学理事会, Waseda Vision 150. 2012年11月. <http://www.waseda.jp/keiei/vision150/pdf/vision150.pdf>, (参照2016-10-22).

- (2) Waseda Vision 150と、それを受けた図書館の今後の展望については以下の記事も参照されたい。深澤良彰. 25年後の図書館のあるべき姿を目指して. ふみくら. 2016, No.89, p.2-3.
- (3) 荘司雅之. 「スチューデント・コモンズ」としての学習コーナーの新設. ふみくら. 2010, No.78, p.10-12.
- (4) 文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会 研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会. 大学図書館の整備について（審議のまとめ）—変革する大学にあって求められる大学図書館像—. 2010年12月. [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm), (参照2016-10-22).
- (5) 中央教育審議会. 新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて：生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ（答申）. 文部科学省. 2012. [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm), (参照2016-10-22).
- (6) 国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会. ラーニング・コモンズの在り方に関する提言：実践事例普遍化小委員会報告. 2015年3月. <http://www.janul.jp/j/projects/sftl/sftl201503a.pdf>, (参照2016-10-22).
- (7) 前述した Waseda Vision 150に向けた学習環境の実現のため、2014年度には早稲田キャンパス3号館2階および西早稲田キャンパス61号館1階、2015年度には早稲田キャンパス7号館1階および19-2号館（共創館）、2016年度には西早稲田キャンパス57号館2階ホワイエなどが、それぞれラーニング・コモンズとして整備されている。
- (8) 文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課整備計画室. 教育の質的転換を図る多様な学修スペースの整備に関する事例. 2016年7月4日. [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shisetu/kokuritu/1373697.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/kokuritu/1373697.htm), (参照2016-10-22).
- (9) 東京大学総合図書館. 総合図書館における利用者調査結果について. 2012年9月19日. <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/sogoto/contents/news.php?datetime=20120919112011>, (参照2016-10-22).
- (10) 立石亜紀子. 大学図書館における「場所としての図書館」の利用実態. Library and Information Science. 2012, No.67, p.39-61.
- (11) 稲葉直也, ティムソン, ジョウナス. 早稲田大学中央図書館における館内利用実態把握の試み. ふみくら. 2016, No.89, p.11-14.
- (12) 具体的な数値を用いた測定が難しいとされる影響力の分析を、教育行政の分野で質問紙調査によって試みた研究として以下の村上祐介による研究がある。村上祐介. 教育行政の政治学：教育委員会制度の改革と実態に関する実証的研究. 木鐸社. 2011, 328p, (日本女子大学叢書10). 村上の採った、影響力の高い機能や

環境を尋ねる際に3つを選択して順位付けさせるといった設問の設定方法や、声価スコアの算出方法などの分析手法を、本研究におけるアンケート設計や分析の参考にした。

- (13) 図書館・情報学分野で声価法を応用した研究としては、長田咲が2015年度三田図書館・情報学会の研究助成を受けて行った、図書館行政における政策過程の影響力構造について分析を試みた研究がある。当該研究で採られている1位率や得票率といった分析方法を本研究でも参考にした。当該研究は近日 *Library and Information Science* 誌に投稿され公表される見込みである。
- (14) 回答者の半数がある要素を3位に挙げた場合に、平均点は0.5となる。そのため、平均点0.5以上を獲得する要素は、回答者の半数以上が影響力を持つと認識しているものとみなすことができる。
- (15) 早稲田大学では、ラーニング・コモンズのような性質をもつスペースを「W Space」と呼称しており、本調査実施時では3号館2階と7号館1階が「W Space」とされていた。詳しくは次のサイトを参照。<http://www.waseda.jp/wpo/facilities/wspace.html>, (参照2016-10-22)。

(いなば なおや 利用者支援課)

資料1 実際に用いたアンケート用紙

---

## 場所としての中央図書館利用に関するアンケート

---

2016年5月18日  
早稲田大学図書館  
利用者支援課

現在、中央図書館では、館内の利用ゾーンや機能の見直しを検討しています。利用者の皆様が、他の施設と比べ、特に図書館に何を求めているのか、どのように利用しているのかを調査し、可能な限りご要望に沿った形での見直しを行わせていただくことを目的としています。図書館を日頃よく活用されている利用者の皆様の、率直なご意見をお聞かせください。

### 1. 調査項目

- 問1 中央図書館の施設や機能について
- 問2 中央図書館の利用ゾーンについて
- 問3 図書館・図書室以外の学習施設について

### 2. 回収方法

中央図書館出口ゲート付近にアンケート回収箱を用意しています。本日のご退館時にご投函ください。

※アンケート結果は、図書館サービス改善を目的とした調査・研究のために利用します。結果は、統計的な処理のうえ、公表されることがあります。

〈お問合せ先〉

早稲田大学図書館 利用者支援課

中央図書館2階レファレンスカウンター（担当：稲葉）

Tel：03-5286-1659

E-mail：ask-lib@list.waseda.jp

調査へのご協力ありがとうございます。利用資格、利用頻度について、該当する番号に○をつけてください。

図書館の利用資格	1. 学部学生 2. 大学院生 3. 教職員・研究員 4. 校友 5. その他 ( )
図書館の利用頻度	1. ほぼ毎日 2. 週に4-5回 3. 週に2-3回 4. 週に1回 5. 月に1-2回 6. 年に数回 7. ほとんど使わない

**問1** 中央図書館の施設や機能についてお伺いします。

1-1 中央図書館を利用する際に欠かせないと思う要素や環境を以下の選択肢から3つまで選び、カッコ内に該当する番号を記入してください。

1位 ( ) 2位 ( ) 3位 ( )

1. 必要な資料がある	2. 静かである	3. 一人で作業ができる
4. 備付インターネット PC が利用できる	5. 無線 LAN で PC 等が利用できる	6. グループで利用できる
7. 図書館員に質問・相談ができる	8. 利用したい時に開館している	9. その他 (上のカッコ内に具体的に記入)

1-2 普段、中央図書館をどのような用途で利用しているのか、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 資料の利用	2. 資料を借りる	3. 電子ジャーナルやデータベースの利用
4. 授業の予習・復習	5. レポート、論文作成	6. 期末試験等の勉強
7. 資格試験等の受験勉強	8. その他の調査や研究	9. 備付インターネット PC の利用
10. グループ学習・ディスカッション	11. 図書館員に質問・相談する	12. 空き時間を過ごす
13. その他 (この欄に具体的に記入してください)		



図書館はなぜ利用者に好まれるのか

1-3 普段よく中央図書館で利用する場所はどこか、以下のフロア図内の番号を参考に、選択肢の当てはまる番号すべてに○をつけてください。



① 2階閲覧席 (ブルー)	② 2階閲覧席 (ブルー)	③ 2階閲覧席 (グリーン)
④ 学習コーナー	⑤ 2階グループ学習室 A	⑥ 2階グループ学習室 B
⑦ 3階グループ学習室 C	⑧ 3階閲覧席 (ブルー)	⑨ 3階閲覧席 (グリーン)
⑩ 3階閲覧席 (グリーン)	⑪ 新聞・雑誌コーナー	⑫ バックナンバー書庫
⑬ 特別資料室	⑭ AV ルーム	⑮ 複写・マイクロ資料室
⑯ 4階図書館ラウンジ		

※フロア図にない1階ならびに地下の施設は、次の選択肢 (⑰～⑲) の番号に○をつけてください。

⑰ 1階研究書庫 閲覧室	⑱ 地下1階・2階 閲覧個室	⑲ 地下1階・2階研究書庫 閲覧席
--------------	----------------	-------------------

1-4 中央図書館の施設や機能について要望や改善してほしい点があれば、3つまでカッコ内に記入してください。

1位 ( )

2位 ( )

3位 ( )

**問2** 中央図書館の利用ゾーンについてお伺いします。

2-1 現在中央図書館は以下の3つの利用ゾーンを設定しています。今、ご利用中のゾーンは\*\*\*ゾーンです。なぜ、あえてこのゾーンを利用していたのか、理由をお書きください。

	ブルーゾーン	静かな環境を保つゾーン。PC・電卓等の機器の利用も、私語も不可。
	グリーンゾーン	静かな環境を保つゾーン。PC等の機器は使用できるが、私語は不可。
	オレンジゾーン	グループ学習が可能なゾーン。機器類の使用とともに、発話も可能。

今のゾーンを利用していた理由：

2-2 各ゾーンの広さについてお伺いします。それぞれ「1 減らすべき」「2 適当である」「3 増やすべき」のうち、適当と思う番号に○をつけてください。

ブルーゾーン	1 減らすべき	2 適当である	3 増やすべき
グリーンゾーン	1 減らすべき	2 適当である	3 増やすべき
オレンジゾーン	1 減らすべき	2 適当である	3 増やすべき

このように選択した理由：

2-3 現在の中央図書館のゾーニングについて、ご意見やご要望があればご自由にお書きください。

→次ページに続きます

**問3** 図書館・図書室以外の学習施設についてお伺いします。

3-1 中央図書館や各キャンパス図書室、学生読書室など、図書館・図書室以外によく利用する学内の学習施設、自習場所、時間を過ごす場所など、3つまでカッコ内に記入してください。

1位 ( ) 2位 ( ) 3位 ( )

1. W Space (3号館2階・7号館1階)	2. コンピュータールーム	3. サークルの部室・たまり場
4. 研究室	5. 各学部・研究科の学生ラウンジ	6. 空き教室
7. 学内の飲食施設	8. 特にない	9. その他(上のカッコ内に具体的に記入)

3-2 これらの施設が、中央図書館と比べて良いと思う点、悪いと思う点、それぞれお書きください。

中央図書館より良いと思う点：

中央図書館より悪いと思う点：

3-3 本日、これらの施設ではなく、なぜあえて中央図書館を利用していたのか、理由をお書きください。

アンケートは以上で終了です。ご協力いただきありがとうございました。

図書館出口ゲート付近にアンケート回収箱を用意しています。退館時にご投函ください。

## 資料2 中央図書館の施設や機能についての要望・改善して欲しい点（1位のみ、 主な回答を抜粋・集約）

### 開館時間・日数について

- 土日の開館時間を延長してほしい（16件）
- 平日の開館時間を延長してほしい（もっと朝早く・夜遅く）（12件）
- 休日開館日を増やしてほしい（4件）
- 24時間開館してほしい（3件）

### 無線 LAN について

- wi-fi がつながりにくい環境を改善してほしい（23件）
- wi-fi が使える場所を増やしてほしい（4件）

### 各ゾーニングエリアに関する意見

- オレンジゾーンでの発話や音が気になる・禁止してほしい（8件）
- ブルーゾーンで PC 等の不適切な利用が多い（4件）
- PC・電卓が利用可能な席（グリーンゾーン）を増やしてほしい（3件）
- オレンジゾーンの拡充してほしい（2件）

### 利用ゾーンの区切りについて

- 利用ゾーンの区切りが分かりにくい（3件）
- 各ゾーンで出来ること・出来ないことがよく分からない

### 閲覧席について

- 閲覧席の環境の改善（電源・照明等）（12件）
- 椅子に対する要望（6件）
- 仕切られた閲覧席を増やしてほしい（2件）

### 喫食環境について

- 建物内または近くに飲食スペースがほしい（11件）
- 自動販売機を設置してほしい（4件）
- 館内で食事をしている人を注意してほしい

### 資料について

- ある分野の資料を増やしてほしい（5件）
- AV 資料についての要望（4件）
- 文庫本を増やしてほしい（2件）
- 欠本の補充を早くしてほしい（2件）

### 館内環境について

- 空調が効きすぎている・効きが悪い（5件）

空気が悪い（ダニ・ほこり）（2件）

館内放送をやめてほしい

飲用水の水温が冷たすぎる

壁時計を増やしてほしい

#### 検索端末・PC 端末について

WINE 専用端末で学術情報検索もできるようにしてほしい（3件）

資料をもっと探しやすくしてほしい（3件）

備付 PC を新しくしてほしい（2件）

備付 PC から印刷できるプリンタがほしい

#### トイレについて

トイレをきれいにしてほしい（3件）

トイレの数を増やしてほしい・トイレの個室が少ない（4件）

#### 持ち込み PC 利用について

PC を利用できる席を増やしてほしい（6件）

#### 入館について

入退館ゲートを改善してほしい（4件）

入口がもっと広いとよい

#### 貸出について

貸出期限に関する要望（2件）

反則点に関する要望

再貸出しを一つのカウンターでできるようにしてほしい

#### 研究書庫について

研究書庫の入庫手続きの改善（3件）

#### コピーについて

コピー機を改善してほしい（2件）

複写料金が高い

複写のルールを緩くしてほしい

#### ソファについて

ソファを増やしてほしい（3件）

ソファの利用マナーが悪い

### 資料3 今のゾーンを利用していた理由（主な回答を抜粋・集約）

#### 今のゾーンを利用していた理由（ブルーゾーン）：

##### 静かである・集中できるため（80件）

PC や電卓の作業音がなく集中できる、館内でもっとも静か、個人的なスペースがある、静かで落ち着く 等

##### 必要な資料の利用のため（12件）

必要な資料の棚が近くにあったから 等

##### 空いていたため（11件）

人が少ないから、グリーンゾーンより空いているから 等

##### 立地のため（8件）

入り口が近いから、トイレが近いから 等

##### その他（4件）

学部時代からずっと気に入っている場所だから、特に理由はない 等

#### 今のゾーンを利用していた理由（グリーンゾーン）：

##### 機器が利用できるため（104件）

PC が利用できるから、PC を使いつつ一人で作業したいから、電卓が使えるから 等

##### 静かである・集中できるため（29件）

静かだから、寛げるから、集中しやすいから 等

##### 必要な資料の利用のため（23件）

雑誌を利用するため、参考図書を使うため、小型辞書が近いため 等

##### 無線 LAN や電源などの環境のため（19件）

wi-fi がつながるから、電源が利用できるから 等

##### 空いていたため（6件）

空いていたから 等

##### 立地のため（3件）

利用したい場所に近いから 等

##### その他（6件）

気に入っている場所だから、周りに集中している人が多いので自分も集中しなければいけないと感じる、適度な音がありストレスを感じないから、ブルーゾーンより使い勝手がよいから 等

**今のゾーンを利用していた理由（オレンジゾーン）：**

**機器が利用できるため（14件）**

備付 PC を利用するため、PC を使った作業を行うため、MyWaseda を利用するため 等

**発話ができる・グループ利用ができるため（13件）**

議論のため、話しながら学習するため、友だちと利用するため、プレゼンの練習のため 等

**静かである・集中できるため（1件）**

静かで落ち着いて勉強に取り組めるから

**その他（5件）**

静かな場所は落ち着かないから、静かすぎずうるさすぎない、使いやすい 等

**資料4 現在のゾーニングについての意見や要望（主な回答を抜粋・集約）**

**ゾーンの区分けに関する意見（10件）**

できればオレンジゾーンとブルーゾーンを離してほしい、ブルーゾーンに他エリアの音が響いている 等

**ゾーニングの認知が不十分であるという意見（7件）**

ゾーニングの認知が不十分、どこがどのゾーンか分かり難い 等

**ゾーンそのもの・ゾーン内の設備に対する要望（7件）**

備付 PC を増やしてほしい、グリーンゾーンなのに wi-fi が入りづらい、電源を増やしてほしい 等

**現状で問題ないという意見（6件）**

特に不満はない、良いバランスだと思う 等

**その他（ゾーニングに関係のないもの）（9件）**

**資料5 これらの施設が、中央図書館と比べて良いと思う点、悪いと思う点（主な回答を抜粋・集約）**

**中央図書館と比べて良いと思う点：**

**喫食環境（46件）**

飲食ができる、飲食物が購入できる 等

#### 立地などの利用のしやすさ (40件)

教室から近い、キャンパス内にある、利用に学生証が不要 等

#### 発話やグループ利用 (31件)

私語が許される、議論ができる、大人数で利用ができる、賑やかにしても良い 等

#### PC 利用環境 (19件)

PC 台数が多い、PC の性能が良い、プリンターがある 等

#### 環境や雰囲気 (17件)

広くて快適である、気兼ねなく自由な雰囲気がある、学生だけが利用している 等

#### 利用可能時間 (10件)

利用可能時間が長い、22号館は24時間利用できる 等

#### その他 (3件)

利用方法・目的が違うため比べられない、勉強には適していない 等

### 中央図書館と比べて悪いと思う点：

#### 騒音や混雑など、雰囲気が学習に向いていない (119件)

騒がしい、落ち着かない、混雑している、緊張感がない、勉強に集中できない、個人の自習には向いていない 等

#### 環境が良くない (33件)

狭い、席が少ない、室温が高い、におい（食事・ほこり等）が気になる 等

#### 必要な資料が利用できない (11件)

資料がない、すぐに調べられない 等

#### PC 利用環境 (8件)

PC ルームは満席が多い、人が多すぎる 等

#### 立地など利用のしやすさ (3件)

遠い 等

#### 利用可能時間 (1件)

開室時間が短い

#### 喫食環境 (1件)

飲み物すら飲めない

#### その他 (4件)

訪ねる目的が違うので比べられない、本当に集中したい時に静かな環境を与えてくれるのは中央図書館しかないと思う 等



**資料6 本日、上述の施設ではなく中央図書館を利用していた理由（主な回答を抜粋・集約）**

**静かである・集中できるため（58件）**

静かに勉強できるから、長時間集中できるから、勉強しなかったから、一人で利用しやすいから、周りの人も勉強しているから 等

**必要な資料の利用のため（28件）**

必要な資料を読むため、資料収集のため、ILL 資料利用のため、参考図書を利用するため、新聞があるため 等

**落ち着くため・雰囲気の良いため（23件）**

落ち着くから、安心感があるから、快適で居心地がいいから、広くてゆったりとしているから、必ずどこか席が空いているから 等

**立地のため（13件）**

授業など次の移動場所に近いから、駐輪場から近いから、交通の便が良いから 等

**機器が利用できるため（8件）**

備付 PC が利用できるから、静かに PC が利用できるから、wi-fi が使えるから、電源が取れるから 等

**中央図書館を利用することが習慣だから（7件）**

来る習慣がついてしまっているから、中央図書館しか利用しないから 等

**利用可能時間（1件）**

夜遅くまでやっているから

**発話ができる・グループ利用ができるため（1件）**

図書館のオレンジゾーンでは友人と話もでき、必要があれば本を探しに行けるから

**その他（6件）**

友だちとの待ち合わせ、たまたま・気分 等